

授業改善書

科目名	生徒・進路指導論（中高）
担当者	布村育子

授業の概要

中学校と高等学校を目指す学生が履修する必修科目であり、人間文化学科と経済経営学科の学生が履修する科目である。

生徒指導提要进行をテキストにして、生徒指導、進路指導、キャリア教育を、現在の教育問題、教育時事問題等と関連させながら展開する授業である。今期は特に、教員の対応、学校の対応、地域との連携など、社会に開かれた教育課程を意識しながら授業を行った。

授業の問題点

学生の大半は真面目であり、こちらの指示を理解し積極的に履修していた。もう少し、多角的な面から物事を捉えられるようになれば、討論やグループワークを通じた学びが深められると思う。

そのためには、日ごろから教育問題等に関心を持って、自分から調べたりするような習慣があるとよいのであるが、なかなか難しい。

学生の授業満足度

概ね肯定的な評価をもらった。ただし、授業には積極的に参加しているが、その場だけの学習になっている学生がいることが伺えた。

授業改善の課題と方策

現在も、テキストに限らず、様々な文献等を紹介している。また教育学者や教育関係者以外の文章なども紹介しているが、自らそういった文献等を探そうとする意欲をもたせたい。

そのために、期末テストの他に、レポートなども課して、文献を探し読み、それをまとめる、という段階と、まとめたものを発表し、授業内で議論するといった作業も今後は考えたいと思う。

その他

例年生徒進路指導論は、学生が興味を持ってもらえる授業である。それは、学生の教員を目指す動機のベースになる関心が、学習指導よりも、生徒指導にあるからだと思う。中学校、高等学校の教員を目指す彼らにとって、生徒指導への関心だけを教師の仕事の中心点におかないよう、促して行くべきだと思う。

授業改善書